

猛獣脱出対策マニュアル

(目的)

- 1、この対策マニュアルは、特定動物脱出要領（以下、要領）を受けて猛獣が脱出した際の対策を決める。

(猛獣の定義)

- 1、特定動物と定められる動物（別紙「動物リスト」参照）
- 2、特定動物に定めない動物種であっても、興奮している動物、会場外へ脱出した動物、複数の動物が脱出した場合など人に危害を与える恐れのある時は猛獣とみなす。

(無線の使用と初動体制、組織化)

- 1、猛獣の捕獲には組織的な行動が必要である。単独で捕獲を試みてはならない。
- 2、初動時の作業手順を次の通りにする。
 - (1)まず、現場での来場者等人の安全確保、動物の監視・追跡を優先とする。
 - (2)同時に、無線を利用した初動体制の起動を行う。
 - (3)無線は、事務所、入口スタッフ、場内スタッフ、楽屋に配置。
 - (4)初動時のスタッフの居場所により当初の役割を定める。

現場発見者	動物の監視と追跡、位置と状況無線にて連絡
会場内の者	来場者の安全確保、動物の監視
会場外の者	現場へ急行、来場者の安全確保
事務所	緊急連絡網に基づき、諸官庁等へ連絡 来場者の安全確保
調教師	捕獲機具の準備、動物の監視
初動指揮者	社長 (不在の場合は当日出勤している最高職位の者とする)

- 3、初動時には現場と初動指揮者で素早く対応しつつ、時間経過とともに組織的な指揮系統を秩序立てていく。
- 4、現場にいる者は動物脱出の初期には、動物の監視や来場者の誘導等複数の役割を必要とする。人員配置が整うにつれ役割を分担していく。

(猛獣脱出対策組織)

- 1、猛獣脱出時の木下サーカス組織の役割は以下の通りとし、通常業務に優先するものとする。
- 2、勤務体制は曜日により異なるため、毎朝各人が上司や部下の出勤状況を確認する。

社長	現場総指揮	総指揮、及び、現場外の対応 (不在の場合は勤務者で最高職の者)
動物班	現場対応	捕獲用具の運搬、動物の捕獲 囲い込み、麻酔の用意
通報班	現場の外の対応	外部組織や諸官庁へ通報、街宣車による地域住民への通報、場内放送
誘導班	現場の外の対応	来場者の安全確保、誘導 負傷者の救護

(人間への危害の防止)

- 1、来場者、地域住民、スタッフに対する危害防止対策は次の通りとする。
 - (1)来場者 誘導班が会場外へ誘導、避難させる。
 - (2)地域住民 街宣車、マスコミを通じて広報する。
会場外へ脱出した場合には直ちに警察へ連絡し住民の安全を依頼する。
警察による道路交通の閉鎖など
 - (3)スタッフ 来場者誘導、避難後会場外へ避難
避難者の対応にあたる。
捕獲にあたる職員は十分な防備の後、行動する。
- 2、車やベンチをバリケードに利用するなど、身近な物を上手に利用して人間に対する被害を最小限に食い止める。

(動物の捕獲用具と捕獲法)

- 1、猛獣の種類に応じて脱出現場への輸送が必要な用具及び捕獲用具は猛獣舎付近と調教師が管理する。
- 2、捕獲用具など脱出対策に必要な資材は数臺、機能を点検しなければならない。
- 3、ネコ科など、特に人を襲う危険性がある場合、社員の防備の為、車を活用する。来場者が多数の場合、交通安全に留意する。
- 4、ゾウ、キリン等突進力のある猛獣が会場内にて逸走した場合、人への危害があると判断し、直ちにそれぞれの調教師が制止にかかる。また、同時に吹き矢による麻酔も用意し使用する。
- 5、捕獲に先立ち、来場者に危険の及ばない事を確認する。
- 6、猛獣の包囲は遠巻きから始め動物を刺激しない。動物の種類、生態に応じた捕獲法を実施する。

(パニックの防止)

- 1、来場者に正確に事態を伝え避難行動への協力を依頼する。
- 2、動物を見失い速やかな避難が必要な場合は、「動物が脱出したので場外へ避難して下さい。スタッフの指示に従って下さい。」などと正確な放送をする。

(長時間を要するとき)

- 1、捕獲作業が長引く時に必要な事項をあげる。
 - (1)動物班 場外への脱出を防ぐ工作
夜間に差し掛かるときは照明等の準備
 - (2)通報班 広報
その他必要な道具をそろえる
 - (3)誘導班 来場者を現場の外へ誘導
その他必要な道具をそろえる

(負傷者が発生したとき)

- 1、負傷者が発生した時の対策をあげる。
 - (1)動物班 現場での負傷者の救出
 - (2)通報班 救急車の手配、病院への付添いなど
 - (3)誘導班 現場での負傷者の救出

(会場外へ脱出した場合)

- 1、場外への脱出が判明した場合、また、その恐れや疑いのある場合は直ちに地域住民への通報を行う。
- 2、警察や消防署等の諸官庁へ協力を依頼し、場外における捕獲体制をとる。

(夜間の脱出)

- 1、夜間の脱出では発見者が調教師以外であることや、すでに場外へ逃走していることを前提に行動しなければならない。
- 2、発見者は直ちに、社長、在場している最高職位の者、調教師へ連絡し、その後場内放送にて社員へ通報。
- 3、別紙「猛獣等逃走時捕獲体制図」に基づきそれぞれへ連絡する。
- 4、動物の捕獲や捜索は、複数名が互いに無線連絡をできる体制になってから開始する。
- 5、車を利用して動物の捜索や追跡を実施する。
- 6、捕獲の判断は、再逃亡の恐れや安全な作業体制が可能か等十分に考慮する。

(動物の射殺)

- 1、ネコ科の動物等の場合で、人に危害を与える事なく捕獲する事が困難であると判断された場合、銃器による射殺も選択肢とする。
- 2、なお、銃器を使用する場合は、地元猟友会に依頼をする。発砲の際の警察への連絡は地元猟友会より行われる。

(脱出予防対策)

- 1、脱出予防として次の対策をたてる。
 - (1)獣舎の修理や改善
老朽化、故障、構造的な不備等を早期に発見し修理や改善を実施する。
 - (2)施錠装置の点検
動物の脱出防止はもちろん部外者の侵入も制止できること。
 - (3)動物の移動や診療時等における注意
動物を動物舎から搬出、搬入する時や移動時、診療時等脱出の可能性が高い場合の注意を怠らない。
 - (4)動物の状態の観察
動物の発情、脅えなど脱出を招きやすい状態にあるかどうか、十分な観察を励行する。
 - (5)特殊な気象に対する配慮
台風等による暴風や大雨、積雪、地震等による特殊な気象を配慮した動物の収納、動物舎の点検に努める。
 - (6)脱出対策訓練
この対策に基づいた新人教育や机上訓練、年1回以上の模擬訓練などを必要に応じて実施する。また、捕獲訓練も実施する。
 - (7)関係機関との調整
脱出時に応援を要請する機関に対して連絡調整をはかる。

(開演時の脱出予防対策)

1、開演時、テント内での脱出予防、危険防止として次の対策をたてる。

(1)十分なスタッフの配置

猛獣ショー、サファリスペクタクル、エレファントショーの際は、それに出演しない調教師がそれぞれのショーの後見として待機する。また、観客誘導班としてスタッフを20人以上配置する。また、後見を10名以上配置する。

(2)猛獣を使ったショーでの脱出予防、危険防止対策

NEWミラクル世界猛獣ショー	飼養施設→ステージ：常設の鉄製トンネルを通る。
	ステージ：鉄製の檻を組み、調教師以外の侵入を禁止する。
サファリスペクタクル	飼養施設より外出の際はくつわを着け、調教師が手綱を握る。
エレファントショー	飼養施設より外出の際は、一頭につき調教師1名が付添い、専用道具により指示を出す。